

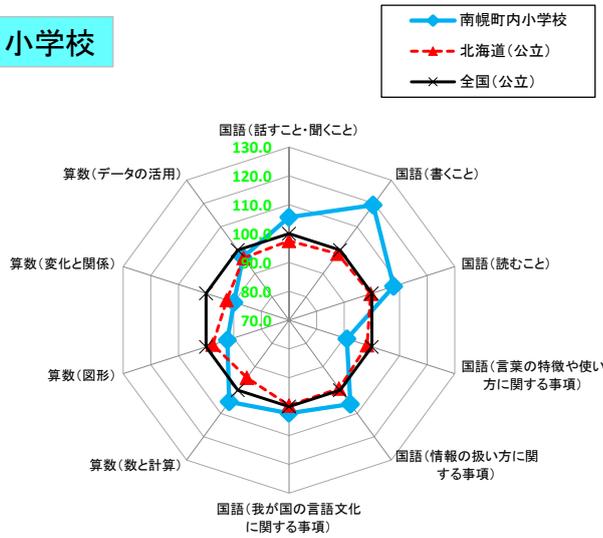
■南幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:38人）（中学校数:1校、生徒数:49人）

【教科全体の状況】

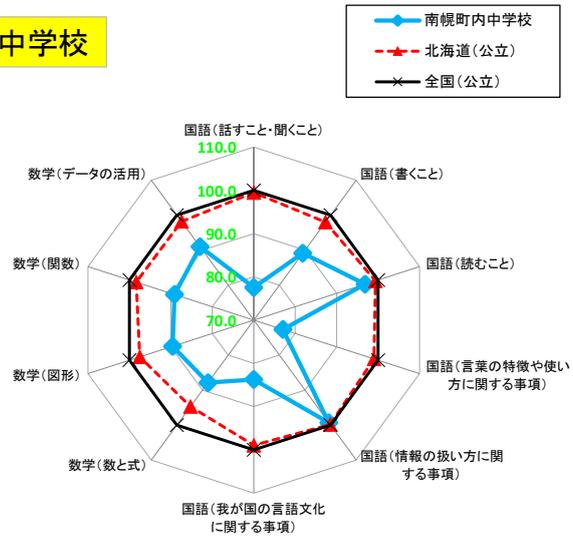
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	50
算数・数学	62	47

小学校

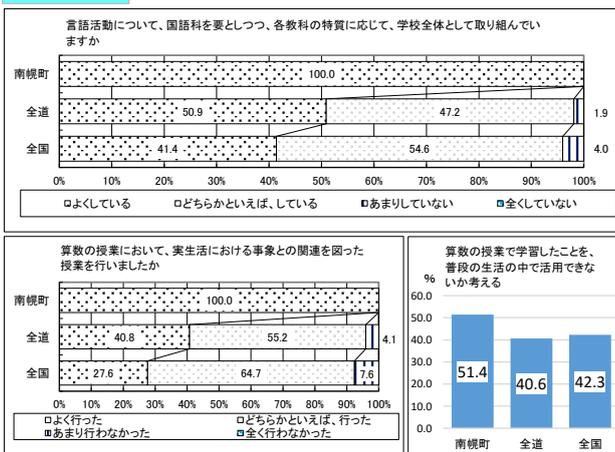


中学校

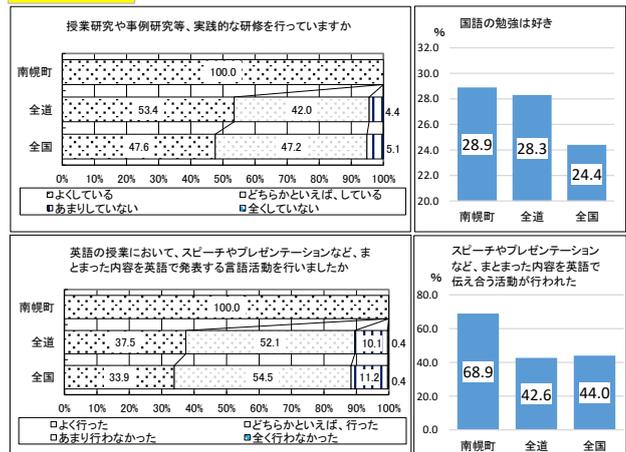


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるという回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

英語の授業において、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行ったことにより、授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で伝え合う活動が行われたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【南幌町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校における基礎学力向上プラン等に基づく組織的な取組の推進
- ◎ 児童生徒一人一人の状況に応じた指導や支援体制づくりに向けた特別支援教育学習指導員の配置
- ◎ きめ細かな指導に向けた少人数学級開設のための町独自による教員加配

令和6年度 全国学力・学習状況調査

南幌町の調査結果の概要

令和6年12月
南幌町教育委員会

令和6年度全国学力・学習状況調査
南幌町の調査結果の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するとともに教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図り、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。更に、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒（原則）

3 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

①教科に関する調査

ア 小学校 国語・算数
中学校 国語・数学

イ 出題範囲は、調査する学年の全学年までに含まれる指導事項を原則とし、調査問題では記述式の問題を一定割合で導入。

②質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下「児童生徒質問紙調査」という。）を実施。

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組みや学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施。

4 調査方式

悉皆調査（対象の全児童生徒）

5 調査期日

令和6年4月18日（木）

6 調査を実施した学校・児童生徒数

国語	小学校児童数	中学校生徒数
全国（公立）	947,364	875,574
北海道（公立）	34,531	33,614
南幌町	38	49

算数・数学	小学校児童数	中学校生徒数
全国（公立）	947,579	875,952
北海道（公立）	34,531	33,598
南幌町	38	49

英語	小学校児童数	中学校生徒数
全国（公立）		
北海道（公立）		
南幌町		

II 結果考察

令和6年4月18日に実施された全国学力・学習状況調査結果を、北海道教育委員会が作成した「分析ツール北海道版」を活用し、前年度の状況や北海道、国と比較を行い、南幌町教育委員会として分析した結果を以下のとおり報告する。

1 調査結果について

全国学力・学習状況調査の正答率一覧を以下の表に示しています。

小学校		教科及び正答率（%）		
		国語	算数	英語
令和6年度 正答率	南幌町	70.0%	62.0%	
	全道	67.0%	61.0%	
	全国	67.7%	63.4%	
令和5年度 正答率	南幌町	73.0%	65.0%	
	全道	66.0%	61.0%	
	全国	67.2%	62.5%	

中学校		教科及び正答率 (%)		
		国 語	数 学	英 語
令和6年度 正 答 率	南幌町	50.0%	47.0%	
	全 道	58.0%	51.0%	
	全 国	58.1%	52.5%	
令和5年度 正 答 率	南幌町	75.0%	55.0%	52.0%
	全 道	69.0%	49.0%	44.0%
	全 国	69.8%	51.0%	45.6%

【概要】

「英語」調査については、3年に1回程度の実施のため、今年度は実施しない。

【結果考察】

北海道教育委員会で作成した「分析ツール北海道版」及び前年度データや北海道、国と比較した分析内容。

1) 小学校

①国 語

正答率としては、全道・全国を2.3～3%程度上回る結果となっているが、前回調査と比較し3.0%下回っている。

全道・全国の前回調査における正答率の比較では、今年度の方が若干上回った結果となった。

②算 数

正答率としては、全道では1.0%上回っているが、全国では1.4%下回っており、前回調査と比較しても3.0%下回っている。

全道・全国の前回調査における正答率の比較では、全国が若干上回っており、全国では算数における理解度が増したと推察する。

2) 中学校

①国 語

正答率は、全道・全国ともに8.0～8.1%下回る結果となり、前回調査と比較して25.0%下回っている。

全道・全国の前回調査における正答率の比較をみても、今年度の方が下回っており、全体的に理解度が低かったと推察する。

②数 学

正答率は、全道・全国を4～5.5%下回る結果となり、前回調査と比較しても8%下回っている。

全道・全国の前回における正答率の比較では、今年度の方が若干上回っており、小学生と同様に中学生においても数学の理解度が増したと推察する。

2 正答割合について

全国学力・学習状況調査における全教科の正答割合を算出した結果を次の表に示しています。

学校種	年 度	受験 人数	正 答 割 合			
			70%以上	50%以上 ～70%未満	30%以上 ～50%未満	30%未満
小学校	令和6年度	38人	60.6% (23人)	18.4% (7人)	10.5% (4人)	10.5% (4人)
	令和5年度	46人	58.7% (27人)	23.9% (11人)	8.7% (4人)	8.7% (4人)
	前回対比	△8	1.9%	△5.5%	1.8%	1.8%
中学校	令和6年度	49人	22.5% (11人)	24.5% (12人)	26.5% (13人)	26.5% (13人)
	令和5年度	28人	39.3% (11人)	39.3% (11人)	21.4% (6人)	0% (0人)
	前回対比	21	△16.8%	△14.8%	5.1%	26.5%
中学生が小6の時の結果		51人	54.9% (28人)	27.5% (14人)	7.8% (4人)	9.8% (5人)

★調査する児童生徒が違うため、単純に前年度と比較をすることは出来ませんが、小・中学校とも前回調査より70%以上の正答率が下回った結果となっています。

参考に、今年度中学3年生が小学6年生の時に実施した数値を記載しています。

3 児童生徒質問紙調査と学力の相関分析について

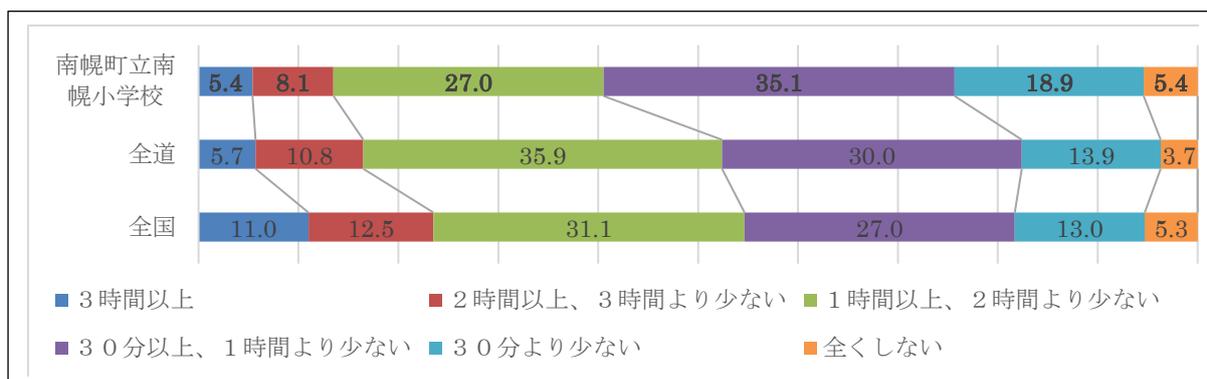
全国学力・学習状況調査の中で児童生徒質問紙調査（小学校73項目・中学校75項目）が実施され、学力に起因すると思われる項目について、前回調査と比較し分析を行いました。

【質問紙調査から抽出した項目】①～⑮項目

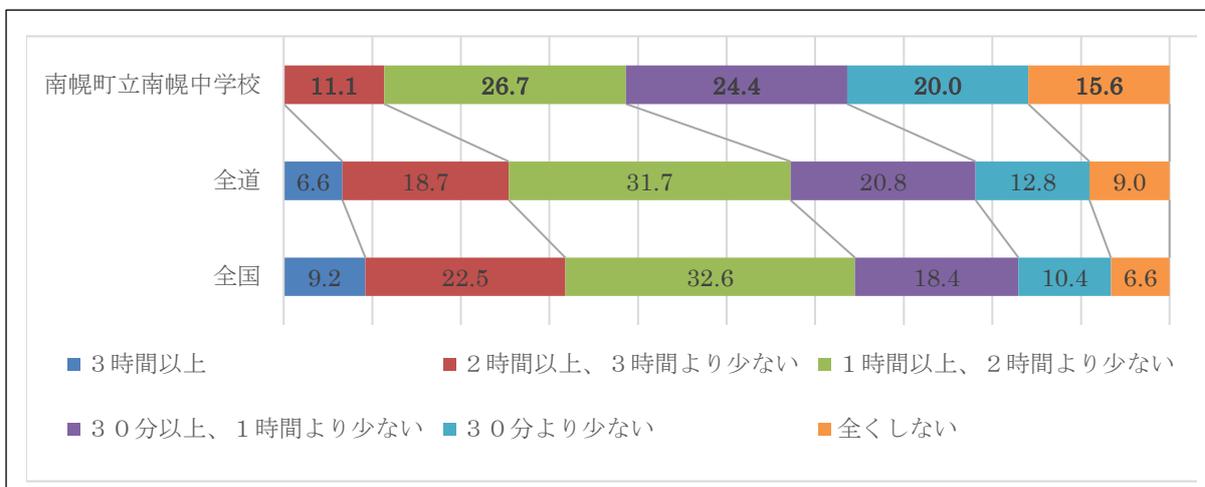
小学校回答者37人、中学校回答者45人（教科の受験人数とは合致しません。）

① 家庭学習時間（質問21）【質問内容：平日1日あたりの勉強時間】

小学校	全くしない	30分以内	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上
令和6年度	5.4% (2人)	18.9% (7人)	35.1% (13人)	27.0% (10人)	8.1% (3人)	5.4% (2人)
令和5年度	2.1% (1人)	25.5% (12人)	42.6% (20人)	25.5% (12人)	4.3% (2人)	0% (0人)
前回対比	3.3%	△6.6%	△7.5%	1.5%	3.8%	5.4%



中学校	全くしない	30分以内	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上
令和6年度	15.6% (7人)	20.0% (9人)	24.4% (11人)	26.7% (12人)	11.1% (5人)	0% (0人)
令和5年度	10.7% (3人)	14.3% (4人)	21.4% (6人)	28.6% (8人)	25.0% (7人)	0% (0人)
前回対比	4.9%	5.7%	3.0%	△1.9%	△13.9%	0%

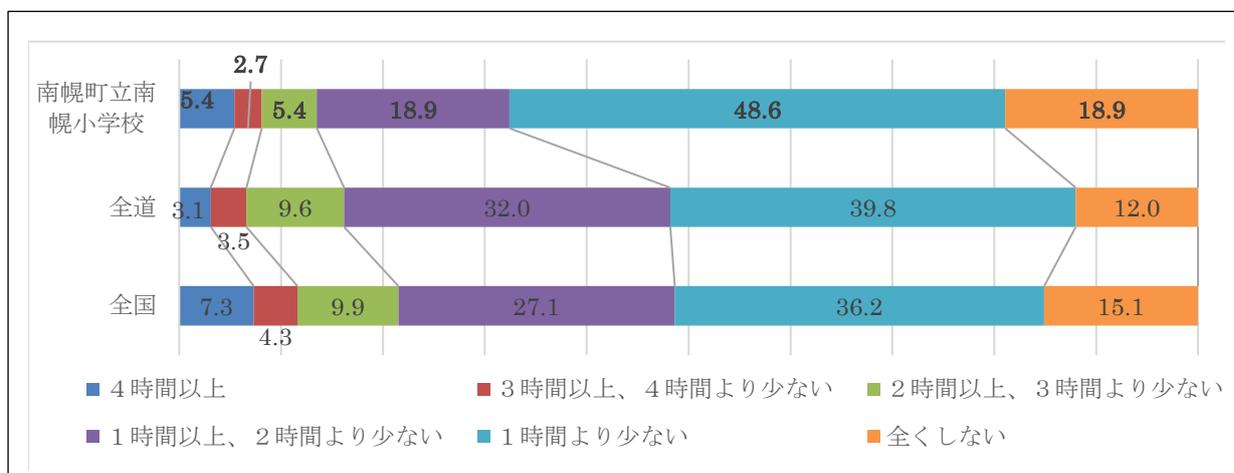


★小学校前回調査との比較では、1時間以上の割合が40.5%と、10.7%上昇したが、全くしないという児童もいることから、家庭学習における取組が課題であると考えます。

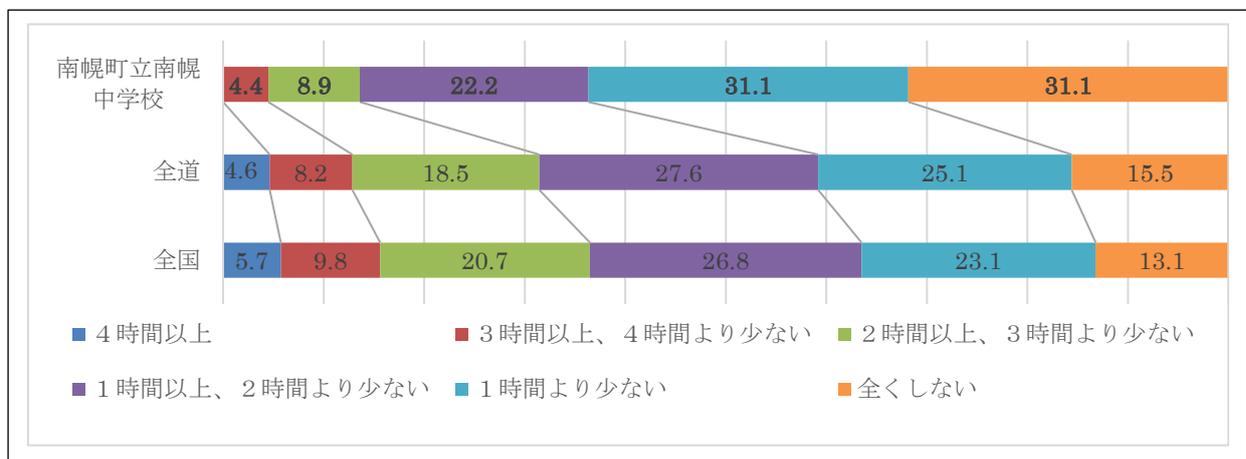
中学校前回調査との比較では、1時間以上の割合が37.8%と、15.8%減少しており、全くしないという生徒の割合も増加しているため、小学校と同様に家庭学習における取組が課題であると考えます。

② 家庭学習時間（質問22）【質問内容：土日、学校が休みの日の勉強時間】

小学校	全くしない	1時間以内	1時間～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
令和6年度	18.9% (7人)	48.6% (18人)	18.9% (7人)	5.4% (2人)	2.7% (1人)	5.4% (2人)
令和5年度	12.8% (6人)	40.4% (19人)	42.6% (20人)	4.3% (2人)	0% (0人)	0% (0人)
前回対比	6.1%	8.2%	△23.7%	1.1%	2.7%	5.4%



中学校	全くしない	1時間以内	1時間～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
令和6年度	31.1% (14人)	31.1% (14人)	22.2% (10人)	8.9% (4人)	4.4% (2人)	0% (0人)
令和5年度	10.7% (3人)	21.4% (6人)	25.0% (7人)	28.6% (8人)	14.3% (4人)	0% (0人)
前回対比	20.4%	9.7%	△2.8%	△19.7%	△9.9%	0%



★小学校前回調査と比較すると、2時間以上の割合は13.5%で9.2%上昇しているが、中学校では、2時間以上の割合は13.3%と29.6%減少している。

平日の学習時間と同様に、全くしないと回答している割合が小・中学校とも増加していることから、正答率50%以上の割合が減少したと推察する。

この結果からも前段でも述べていますが、家庭学習の取組みを一層強化する必要があります。

③ 新聞を読んでいるかどうか（質問24）

小学校	ほとんど・全く読まない	月に1～3回程度	週に1～3回程度	ほぼ毎日
令和6年度	91.9% (34人)	5.4% (2人)	2.7% (1人)	0% (0人)
令和5年度	78.7% (37人)	10.6% (5人)	8.5% (4人)	2.1% (1人)
前回対比	13.2%	△5.2%	△5.8%	△2.1%

中学校	ほとんど・全く読まない	月に1～3回程度	週に1～3回程度	ほぼ毎日
令和6年度	91.1% (41人)	2.2% (1人)	2.2% (1人)	0% (0人)
令和5年度	67.9% (19人)	21.4% (6人)	10.7% (3人)	0% (0人)
前回対比	23.2%	△19.2%	△8.5%	0%

★今年度、家庭での読書時間の質問がなかったため、新聞の閲読時間に着目した。

小・中学校ともに、新聞を読む習慣は極めて低いことが判明した。

文科省が位置づけしている学習指導要領では、新聞閲読習慣と学力との間に相関関係があり、教育にも新聞の必要性を述べている。

現在、小・中学において新聞を定期購読しているため、新聞を活用し学力向上に繋げて欲しいと考えます。

④ 就寝（質問2）【質問内容：毎日、同じ時間に就寝しているかどうか】

小学校	全くしていない	あまりしていない	どちらかといえば	している
令和6年度	5.4% (2人)	18.9% (7人)	35.1% (13人)	40.5% (15人)
令和5年度	4.3% (2人)	6.4% (3人)	31.9% (15人)	57.4% (27人)
前回対比	1.1%	12.5%	3.2%	△16.9%

中学校	全くしていない	あまりしていない	どちらかといえば	している
令和6年度	2.2% (1人)	11.1% (5人)	44.4% (20人)	40.0% (18人)
令和5年度	0.0% (0人)	14.3% (4人)	53.6% (15人)	32.1% (9人)
前回対比	2.2%	△3.2%	△9.2%	7.9%

⑤ 起床（質問3）【質問内容：毎日、同じ時間に起床しているかどうか】

小学校	全くしていない	あまりしていない	どちらかといえば	している
令和6年度	2.7% (1人)	8.1% (3人)	40.5% (15人)	48.6% (18人)
令和5年度	0% (0人)	8.5% (4人)	27.7% (13人)	63.8% (30人)
前回対比	2.7%	△0.4%	12.8%	△15.2%

中学校	全くしていない	あまりしていない	どちらかといえば	している
令和6年度	0.0% (0人)	6.7% (3人)	26.7% (12人)	64.4% (29人)
令和5年度	0.0% (0人)	7.1% (2人)	46.4% (13人)	46.4% (13人)
前回対比	0%	△0.4%	△19.7%	18.0%

⑥ 朝食（質問1）【質問内容：毎日、朝食を食べているか】

小学校	全く食べていない	あまり食べてない	どちらかといえば	食べている
令和6年度	2.7% (1人)	8.1% (3人)	16.2% (6人)	73.0% (27人)
令和5年度	4.3% (2人)	4.3% (2人)	8.5% (4人)	83.0% (39人)
前回対比	△1.6%	3.8%	7.7%	△10.0%

中学校	全く食べていない	あまり食べてない	どちらかといえば	食べている
令和6年度	0% (0人)	4.4% (2人)	13.3% (6人)	82.2% (37人)
令和5年度	0% (0人)	3.6% (1人)	7.1% (2人)	89.3% (25人)
前回対比	0%	0.8%	6.2%	△7.1%

★④～⑥については「早寝・早起き・朝ご飯」運動が定着されているかどうか確認できる質問です。

小・中学校ともに、「同じ時間に寝る（起きる）」「朝食を食べている」児童生徒の割合が「どちらかといえば」を含めても、おおむね規則正しい生活を送るためのリズムが定着していると推察しますが、小・中学校とも数名程度が朝食を食べてい

ない・あまり食べていないと回答していることから、引き続き「早寝・早起き・朝ご飯」運動の推進や、栄養教諭と連携し食育を通じた取組が必要と考えます。

⑦携帯などの視聴時間（質問6）【質問内容：1日あたり、携帯やスマホで動画を視聴する時間（学習・ゲームに使用する時間は除く）】

小学校	もってない	1時間以内	1時間～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
令和6年度	21.6% (8人)	16.2% (6人)	16.2% (6人)	16.2% (6人)	8.1% (3人)	21.6% (8人)
北海道	19.2%	24.5%	16.9%	14.2%	10.1%	15.0%
全国	21.1%	27.9%	17.3%	13.1%	8.8%	11.9%

中学校	もってない	1時間以内	1時間～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
令和6年度	2.2% (1人)	11.1% (5人)	13.3% (6人)	28.9% (13人)	11.1% (5人)	28.9% (13人)
北海道	3.2%	14.1%	21.1%	23.4%	15.9%	21.8%
全国	3.4%	16.5%	23.3%	23.4%	14.3%	18.2%

★小・中学校ともに北海道や国と比較して、2時間以上視聴する割合が多くなっています。

特に中学校に進学すると、視聴時間も長くなっている傾向が見受けられます。家庭学習の時間が減少している要因の一つと推察します。

⑧家庭での携帯などの約束（質問7）【質問内容：家で携帯やコンピュータの使用について、約束を守っているかどうか】

小学校	所持してない	約束はない	守ってない	あまり	だいたい	守っている
令和6年度	16.2% (6人)	13.5% (5人)	0% (0人)	2.7% (1人)	24.3% (9人)	43.2% (16人)
北海道	12.1%	10.2%	0.8%	4.6%	32.8%	39.5%
全国	13.7%	9.8%	0.9%	4.5%	31.7%	39.4%

中学校	所持してない	約束はない	守ってない	あまり	だいたい	守っている
令和6年度	2.2% (1人)	17.8% (8人)	2.2% (1人)	4.4% (2人)	31.1% (14人)	40.0% (18人)
北海道	2.8%	17.4%	1.1%	5.2%	37.1%	35.7%
全国	3.2%	16.8%	1.3%	5.6%	38.2%	34.0%

★小・中学校ともに、ほぼ守っている結果であるが、北海道や国と比較すると、若干低い割合になっているので、教育委員会としても、家庭におけるルールづくりの必要性を伝えていく必要があると考えます。

- (例) ネット依存症のリスク
 学習への影響（学力低下の恐れ）
 生活リズムの乱れ

⑨ 学習（質問 36）【質問内容：先生は、テストや授業で間違えたところや、理解していないところを、分かるまで教えてくれていると思う】

小学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
令和6年度	0% (0人)	2.7% (1人)	29.7% (11人)	67.6% (25人)
北海道	3.1%	10.2%	38.8%	47.9%
全国	2.8%	9.2%	40.6%	47.3%

中学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
令和6年度	2.2% (1人)	11.1% (5人)	42.2% (19人)	42.2% (19人)
北海道	2.8%	11.8%	48.2%	36.5%
全国	2.7%	11.5%	49.4%	35.5%

★小学校では、北海道や国と比較して、当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童が多くなっています。

少人数学級（35人）により、きめ細かな指導がなされていることが伺われます。

中学校においては、北海道や国とほぼ変わらない割合ですが、小学校と比較すると若干低いことが伺われます。

小学校では、国や道で少人数学級の基準が設けられていますが、中学校においては、未だ1クラス40人の学級編成となっているので、中学校においても少人数学級（35人）の導入が必要ではないかと考えます。

⑩ ICT活用（質問 28-4）【質問内容：ICTにおける動画や音声など活用することで学習内容がよく分かる】

小学校	そう思わない	あまりそう思わない	そう思う	とてもそう思う
令和6年度	0% (0人)	2.7% (1人)	62.2% (23人)	35.1% (13人)
北海道	2.7%	11.1%	38.5%	47.6%
全国	2.8%	11.1%	39.1%	46.9%

中学校	そう思わない	あまりそう思わない	そう思う	とてもそう思う
令和6年度	8.9% (4人)	4.4% (2人)	40.0% (18人)	42.2% (19人)
北海道	3.5%	14.2%	43.9%	37.7%
全国	3.4%	13.4%	43.3%	39.1%

★一人1台端末である chrome は、今や鉛筆やノートと並ぶものとなっています。

小・中学校ともに、ICTの活用で授業が分かるかと回答しており、現在1人1台端末の更新が始まり、GIGAスクールは第2期「NEXT GIGA」へと突入しています。

ICTの活用は、自治体間格差、学校間格差が指摘されてもいますので、ICT支援員と連携し日常的に活用できる環境づくりを進めていく必要があります。

⑩ ICT 活用（質問 4）【質問内容：学校の授業時間以外に普段 1 日あたりタブレットなどの ICT 機器を勉強のために使っているかどうか】

小学校	全くない	30 分以内	30 分～1 時間	1～2 時間	2～3 時間	3 時間以上
令和 6 年度	37.8% (14 人)	29.7% (11 人)	21.6% (8 人)	5.4% (2 人)	5.4% (2 人)	0% (0 人)
北 海 道	23.4%	29.1%	26.3%	14.1%	4.3%	2.8%
全 国	25.9%	29.9%	24.4%	12.3%	4.3%	3.2%

中学校	全くない	30 分以内	30 分～1 時間	1～2 時間	2～3 時間	3 時間以上
令和 6 年度	48.9% (22 人)	20.0% (9 人)	8.9% (4 人)	13.3% (6 人)	4.4% (2 人)	2.2% (1 人)
北 海 道	29.1%	33.6%	20.0%	11.1%	3.8%	2.1%
全 国	28.4%	34.8%	19.8%	10.5%	3.8%	2.3%

★小学校では、勉強のために ICT 使っている割合は、国や道と比較すると低い結果となっており、教育委員会としては、学習用アプリ（スマイルネクスト）の活用を推進していきます。

また、⑩の質問で ICT を活用することで、授業が分かりやすいと回答している児童生徒が多いことから、ICT を効果的に活用していくことで、家庭学習の時間も増え、学力の向上に繋がっていくと考えます。

⑫ 国語について（質問 42・44）【質問内容：国語の勉強は好き・授業の内容は分かる】

小学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
国語は好き	8.1% (3 人)	13.5% (5 人)	54.1% (20 人)	24.3% (9 人)
内容は分かる	2.7% (1 人)	5.4% (2 人)	51.4% (19 人)	40.5% (15 人)

中学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
国語は好き	8.9% (4 人)	17.8% (8 人)	44.4% (20 人)	28.9% (13 人)
内容は分かる	2.2% (1 人)	8.9% (4 人)	51.1% (23 人)	35.6% (16 人)

★小・中学校ともどちらかと言えばも含めて、国語の授業が好きな割合は 70%以上となっています。

また、授業の内容が分かるという回答した割合では、小・中学校ともに、どちらかと言えば当てはまるも含め、好きという回答した割合より高くなっています。

これは、国語があまり好きではない児童生徒がいる中でも、分かりやすい授業になるよう、先生が日常的に工夫を行いながら授業を進めていることが推察されます。

⑬ 算数について（質問 50・52）【質問内容：算数の勉強は好き・授業の内容は分かる】

小学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
算数は好き	18.9% (7人)	10.8% (4人)	29.7% (11人)	40.5% (15人)
内容は分かる	2.7% (1人)	8.1% (3人)	40.5% (15人)	48.6% (18人)

中学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
算数は好き	20.0% (9人)	37.8% (17人)	26.7% (12人)	15.6% (7人)
内容は分かる	11.1% (5人)	8.9% (4人)	51.1% (23人)	26.7% (12人)

★算数・数学についても、国語と同様で、小・中学校ともに算数の授業が好きと回答した割合より、授業の内容が分かると回答した割合が高いことから、先生が日常的に工夫を行いながら授業を進めていることが推察されます。

⑭ 相談（質問 14）【質問内容：困りごと、不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる】

	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
小学校	5.4% (2人)	16.2% (6人)	35.1% (13人)	43.2% (16人)
中学校	11.1% (5人)	22.2% (10人)	46.7% (21人)	17.8% (8人)

★相談できる児童生徒の割合は高いものの、一定程度当てはまらないなどと回答している児童生徒もいることから、ほっとやQUを活用し、引き続き児童生徒への理解を深めていく必要があると考えます。

⑮ 自己肯定感（質問 9）【質問内容：自分には、よいところがあるかどうか】

小学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
令和6年度	2.7% (1人)	16.2% (6人)	37.8% (14人)	43.2% (16人)
令和5年度	2.1% (1人)	14.9% (7人)	34.0% (16人)	48.9% (23人)
前回対比	0.6%	1.3%	3.8%	△5.7%

中学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
令和6年度	6.7% (3人)	17.8% (8人)	62.2% (28人)	13.3% (6人)
令和5年度	3.6% (1人)	21.4% (6人)	53.6% (15人)	21.4% (6人)
前回対比	3.1%	△3.6%	8.6%	△8.1%

★小学校の前回調査と比較すると、当てはまる及びどちらかと言うと当てはまると思っている割合が81.0%で1.9%低くなっており、逆に中学校では前回調査と比較すると、当てはまる及びどちらかと言うと当てはまると思っている割合が75.5%で0.5%高くなっています。

自己肯定感が低いと、自分に価値を見い出せなくなり、否定する機会が増え、生き苦しさやストレスが強くなる傾向があります。

生徒の自己肯定感を高めるために、学校が日々の授業やコミュニケーションを通じて児童生徒の成長を見守り、学校と地域が一体となってサポート体制を整えることができる環境づくりができるよう、教育委員会として支援していく必要があると考えます。

【総括】

児童生徒の正答率を上げていくため、家庭学習を定着させることや、規則正しい生活習慣、携帯やスマホなどの適切な利用が重要であることが改めて確認できた。

教科別では、小学校国語は、言葉の特徴や使い方に関する事項（漢字を文の中で正しく使うことができるかどうか）で、中学校国語では、話すこと・聞くこと（話題や展開を捉えながら、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめること）と言葉の特徴や使い方に関する事項（表現の技法について理解しているかどうか）が全国・全道ともに平均正答率が大きく下回っている。

小学校算数では、図形（直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているか、中学校数学では関数（二つのグラフにおけるy軸との交点について、事情に即して解釈できるか及びデータの活用（複数の集団のデータの分布から四分位範囲を比較することができるか）で、全国・全道を大きく下回っている。

このことから、大きく下回った問題については、繰り返しの学習など、理解が深まるような取組みが必要だと考えます。

家庭学習時間の目安について、よく言われているのは「学年×10分」「学年×10分+10分」です。

学習時間の長さだけでなく学習内容が大切ですが、まずは家庭学習を習慣化することが大切です。

普段から家庭学習が習慣化となるよう、低学年から習慣づけることが重要です。

ゲームやスマートフォンの利用時間など、ルールは決めていても、守れているかどうか、各家庭でも時々確認することも必要だと考えます。

また、本や新聞を読むことは、読解力が高まり幅広い知識が身につきます。

教育委員会としても、学校での読書活動等を推進していきたいことと、「なんぼろ学力向上メッセージ」を保護者向けに作成し、家庭内で話し合いを持つ機会の創出を図っていきたいと考えます。

併せて、公設学習塾を活用し、学力の向上に繋げていきたいと考えている。